

(中略)

拾八口

右者眾人十右工門家屋敷・諸道具調所おさせつけられ、見分の左め張り越し吟味仕り候ところ、書面の通り相違御座無く候。七右右諸道具の義は、内所字寄・地目付ともへ預けおき申し候。此段申上げ候 以上

御徒士目付 下川 勝左 丑門 印
小 頭 山田 作兵衛 印

(おわり)

便りの中から

地震と高山海岸のこと

藩江新野野河原

吉田 勝一 老より

(上略) 昨年は先生の御尽力で所史ができて、所長皆感激していただきます。今後は何時々までも所史は保存され役立つことと思えます。現在の蒲江町高山・元嶽海岸のこと、書いてはしなかったことがありました。所史には昔の地震のことは書いてありますが、その時に蒲江の背平山が約四分の一が海に沈み、その山の土が高山元嶽の新しい海岸をつくったといえます。

現在の新高敷世付迄までがそれまで一面の海で、蒲江行きへの通陸は海岸の上の山の中を通っていて、その道は現在もはつきり残っています。

高山海岸現在のすな地は全部海でそれが百五十年も二百年もかかると追々出来たといふ。と私に祖母たちからも聞いています。

地震によって自然の地形が変ったこと、他ではあまり例のないことと、蒲江所史に書き残したかったと思つてままた書いて見ました。

(下略)

編集者いこう——惜しいことでした。宝永四年(約三〇年前)か、

なげ北代安政元年(百三十四年前)の地震でしょうか。今度蒲江に
出かけたとき、現地をどくと見ましよう。(吉田氏及山田氏の談)

探訪記録

御土碑文巡り (一)

相江 野々下留蔵の碑

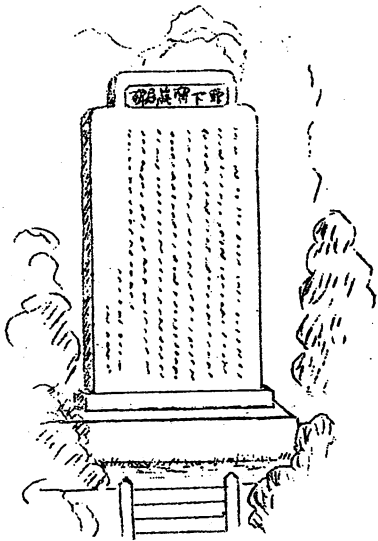
会員 山本 保

佐伯市相江區、江國寺(禪宗)の境内、左手一段高いところ、次のような「野々下留蔵記念碑」が佇んでいます。

(注) 原文のままであるが、読者の便を考へて句読点を加え、且つ文意を汲んで段落を設けたことをお断りしておきます。記念碑の様式はおおよそスケッチのようです。

碑面・文字

野々下留蔵君碑



野々下留蔵君碑 (佐伯市江國寺境内)

昭和二十年六月二十九日、米國ノ飛行機門司市(注現在北九州市門司區)ヲ攻撃シ、至ル所ニ極威ヲ逞シクシ、明治屋支店モ亦烈火ノ襲フ所

(文ニエツリ)